

令和4年度第1期アーバンデザインセミナー第2回実績報告書

1. 開催日時

令和4年8月19日（金）18時00分～19時30分

参加人数: 24名（UDCBKでの視聴: 14名、オンライン: 10名）

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、11回

2. テーマおよび話題提供者

「町の自転車屋さんが始めた、食を通じて地域とつながる場づくり」

- コミュニティにおけるヒト、モノ、コトのつながり促進や地域課題解決のアプローチの事例など、今年度のセミナーのテーマである「大学のあるまち・学生の住むまち」について、地域コミュニティとのつながりの視点から3回シリーズで展望する「つながりのあるまち」の第2回である。
- 第2回の本セミナーは、地域密着を大切にする自転車店が「食」をテーマに学生と連携しながら挑戦する、地域とのつながりやコミュニティ、様々な"チャレンジ"が生まれる場づくりの取組から、新しい共創のかたちや広がりについて、立命館大学食マネジメント学部4年生で、学生団体ユニコーン代表の松本愛梨氏、mitikusa cafeを運営する京都自転車販売株式会社営業本部長の林健太郎氏、合同会社洛北社中代表で、コミュニティマネージャーの十塚悠氏を講師に迎え、開催した。



3. 話題の概要

(1) 林氏による講演

- コンズサイクルは、自転車を通じて、地域に根差し、地域社会の皆様とともに成長していく会社を目指している。
- お客様に寄り添い、提案や整備を行ってきたからこそ、京都を中心に店舗を拡大（現在 17 店）できてきたと考えている。例えば、自転車の空気はスタッフが入れるようにしており、その時にお客様と会話することで提案につながる。
- 17 店舗には、それぞれ個性を持っており、現場が常に新しいことにチャレンジしていく気持ちを大切に日々の仕事に取り組んでいる。
- これまでの自転車啓発の取組が評価されて 2021 年 4 月にリニューアルオープンした京都市にある大宮交通公園では、コンズサイクルが自転車教育を実施している。
- 2022 年 1 月にオープンした南草津店は、当社初となるカフェ併設店である。大宮交通公園内の店舗立ち上げの際に知り合った十塚さんと十塚さんに紹介してもらった松本さんとともに、何かチャレンジや経験ができ、出会える場づくりを目指して mitikusa cafe をつくった。
- mitikusa cafe では、バリスタが淹れたコーヒーや間借りシェフによる飲食メニューの提供、キッチンカーの誘致など色々な試みを行っている。また、立命館大学食マネジメント学部との商品開発にも挑戦している。
- 今後は、情報発信の場としても mitikusa cafe を活用していきたい。例えば、テラスでのマルシェの開催、草津市の自転車観光マップの作成やお客様とのライドイベントなど、まちの魅力を感じてもらいながら、その途中「みちくさ」してもらえるような場所にしていきたい。

(2) 松本氏による講演

- ユニコーンという学生団体で、地域で循環するコンポストをつくるプロジェクトを実施している。
- 生協食堂の廃棄食材（食品ロス）を学内のコンポストによって堆肥にし、それを衣笠にある農園で使用してできた野菜をまた食堂で食材にするという循環型の仕組みを構築している。
- 学生団体の活動とは別にデザインにも興味があり、mitikusa cafe の立ち上げにおいては、店舗のロゴを開発した。
- デザインの開発に当たっては、店舗にどのような人が来るか、どのような人に来てほしいか、ということを考え、コンセプトをつくり上げた。
- ロゴをつくるだけでなく、コンズサイクルとしてのブランドやカフェ全体のコンセプトを言語化しながらデザインしていく。
- デザインの提案に際しては、改良の余地を残すことやフィードバックをもらう観点

を絞ることを大切にしたい。またカフェのブランドを定期的に見直すことも今後必要だと考える。

(3) 十塚氏による講演

- 立命館大学 BKC で学んでいたのも、草津のまちには縁があるが、その当時はただ通過するだけだった。卒業後、会社勤務を経て、現在はまちづくりなどを行う会社の代表を務めている。また、コンズサイクルが出店している大宮交通公園の管理人でもある。
- 本業がたくさんあるパラレルワークを掲げており、認知症の人を見守るアプリケーション開発を行う団体やハワイアンカフェにも関わっている。また、他のパラレルワーカーとの共創も行っている。例えば、松本さんは、学生であるけれどもデザイナーでもあり、団体の運営も行っているパラレルワーカーと言える。
- 大宮交通公園では、自転車に関する事以外にもマルシェやファーマーズマーケット、環境啓発や防災イベントの企画運営を行っている。またイベントに関わった農家の人たちとのつながりによって子ども食堂などの地域コミュニティづくりにも発展している。南草津でも将来、このような取組ができればと思っている。さらに、公園では、コンポストでできた堆肥を活かした土壌づくりも進めている。
- 大宮交通公園を、地域住民や学生、企業、自治体などが、自然・文化・歴史など今あるものを生かして、「やりたい」を実現し、「つながり」が生まれる場としていきたいと考えている。それはサステイナブルパーク（地域資源循環拠点）ということもできる。
- mitikusa cafe は共創の場づくりが一つのテーマになるのではないかと考える。縁を大切にすることで、色々なことが次々につながっていく。例えば、南草津病院が実施しているコーヒー焙煎による障害者支援と地元の信用金庫とのつながりや立命館大学の学生とファーマーズマーケットに出店している農家のつながりなど、一つの縁から勝手につながっていくことがあった。
- 人を巻き込むには、人と人がどのようにつながっていくか、どのようなことができるか、といったことを考える「妄想」を共有することが大切だと思う。そこから、ストーリーが共創できる。mitikusa cafe であれば、最初にコンセプトボードには好き勝手な提案をしていた。そして、カフェの予定地から大学まで実際に歩いてどんなお店にしたいかストーリーをつくり上げた。

(4) 松本氏、林氏、十塚氏によるトークセッション

(コンズサイクル南草津店店長の前田哲矢氏、本社営業企画室の近藤大督氏、近藤駿吾氏もセッションに加わっていただく)

十塚氏: 学生と連携する上で重視することは何か。

林氏: 学生との付き合いで言えば、アルバイトが70名ほど在籍している。ただ、それ以外の仕事を学生にお願いするという立場は今回が初めてとなる。最初に松本さんの名刺のデザインを見たときに、良いデザインだと感じたので、一緒にやってみようと思った。学業が忙しい中、しっかりとやってくれるのか最初は不安であったが、若い発想でデザインしてくれた。今までお願いしていたデザイナーではなくチャレンジでもあったが、元々、新しいことでも現場の意見を重視する社風なので、今回も今までとは違うものできたと思う。

十塚氏: 学生の側からみて、連携しやすい企業というものはあるか。

松本氏: 学生としては、信頼がない状態からの関係づくりになるので、フレンドリーで安心して提案できる環境が今回あったことはとても良かった。コンズサイクルの皆さんと一緒に考えていこう、フィードバックしてより良いものをつくっていこうという姿勢を持ってくださっていた。現場主義で最後まで良いものをつくりたいという思いも感じた。

十塚氏: 今回、カフェをつくったが、学生が使いたくなる場所というのはどういうところか。

松本氏: 南草津は学生（特に理系の男子学生）のまちということで、ファストフード的な店が多い。一方、女子学生がゆっくりと過ごせる場所が少ない。そういったこともあって、行きたいなと思える場所づくりを考えた。mitikusa cafeについて、店からの一方的な発信ではなく、カフェを利用したい人がSNSで発信してもらっているのを見ると嬉しくなる。皆が当事者として関わられるような共創があれば、コミュニティが広がっていくと思う。

林氏: 何かやりたいけれど場所がないというのはかわいそうに思う。企業から何かできないかということを考えている。食だけでなく、まちづくりや観光ライドなど、学生としてもやってみたいことがあれば相談してほしい。実は店の前の国道一号線はあまり学生が通らない。駅も一日4万人の利用ということだが、学生は通り過ぎていくだけのように思う。これから、地域の皆さんとまちを盛り上げていければと思う。例えば店の前のスペースを利用して盆踊りなどができたら楽しそう。

十塚氏: 新しく移住してきた人もいるので、そういう人たちも含めて。

林氏: 学生、地域の人々と一緒につくっていったらと思う。

十塚氏: これまでの学生との共創について何か感想などあるか。

前田氏: 学生の意識が高いことが良い刺激になっている。驚きもある。

林氏: 他のスタッフも刺激になっている。

十塚氏: カフェをつくったことで、そういった場づくりもできていると感じる。

近藤（駿）氏: カフェ併設によって、地域密着で南草津、滋賀に貢献できるのではないかと思う。進化しているこのまちで、発展させていきたい。中小企

業としての社会貢献を安全啓発などのかたちで地域の方々に届けて
いきたい。

近藤（大）氏: 2021年は、安全教室を100回、1,500名の方々に向けて実施した。こ
ういうことは昔からやってみたかった。まちの自転車屋として、どのよう
に環境の変化を乗り越えていくかということが大切であり、それが、大
宮交通公園の環境・教育に特化した店舗に現われていると思う。京都、
滋賀でもそういった活動をもっと広げていきたい。

十塚氏: UDCBKの皆さんも含めて連携できれば良いと思う。

4. 質疑応答等

(1) 参加者 1: コンズサイクルが考えているコンセプトなど社内外にいか
に広めていくか。

林氏: 滋賀県に店舗を出す前は、滋賀県のことをあまり知らなかつた。し
かし、調べてみると、歴史がある土地であることが分かった。また、自
転車屋だが、ピワイチというものには実はあまり関心がない。距離が
長すぎて、初心者にはとてもしんどいものになる。琵琶湖だけでない
20km程度で走れる簡単な観光マップがあれば、まちの魅力的なところ
を知ってもらうきっかけになるのではないかと思う。

(2) 参加者 2: デザインと食、カフェなどとのつながりについて。

松本氏: 一見、フードロスとデザインはつながりがないように見えるが、
伝えたいことを伝える手段としてデザインは有効である。また、「捨てる」
がない社会を目指す上で、小さなところ、例えばカフェのような場で始
めていっているという部分もある。興味を持ってもらうことで、そう
いった社会への環境づくりができていくと感じる。

(3) UDCBK: 場づくり、妄想、ストーリーの共有といったことについて
共感する部分があった。ちなみに、これまで失敗したということはあるか。

十塚氏: 最終的に何か失敗に終わったということはない。双方のニーズ
を捉えると、ミスマッチが少なくなる。また、当初のイメージと異な
っても代わりの人がいるということもある。そこがコーディネートで
重要な点である。

UDCBK: センス、臨機応変の対応が必要ということを感じた。

十塚氏: つなぐだけではなく、つないだあとが重要になってくる。

(4) 参加者 3: これから副業を考えているが、パラレルワーカーにな
ったきっかけは何か。

十塚氏: これも縁とタイミングなのだが、大宮交通公園の管理という
仕事で一定の安

定した収入が得られるようになったことが一つのポイントになった。これから人口減少社会になっていく時代、専門の人だけでは足りない時代になってくと思う。地域のことを担う人材がもっと必要になってくると考える。

(5) 参加者 3: これから何かをやってみたいという人がいればお店と一緒にできるか。

林氏: 基本にお声掛けをいただければ、やってみたいと思うことにノーとは言わない。チャレンジの場ということを実践しているので、何か問題があっても一緒に修正していくという姿勢で臨む。

5. アンケートまとめ

参加者 24 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 6 名、回答率は 25% だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代 (回答数: 6)

10代~20代	30代~40代	50代~60代	70代以上
0	3	2	1

(2) お住まい (回答数: 6)

草津市内	滋賀県内他市	滋賀県外
5	1	0

(3) 職業 (回答数: 6)

学生	大学関係者	会社員等	その他
0	1	2	3

(4) 開催を知った手段 (複数回答) (回答数: 7)

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
1	0	2	2	1	1	0

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 正しさより楽しさ、人と人をつなげた時にどうなるかという妄想の共有。
- コンズサイクルの企業理念や活動、大宮交通公園での取り組みなど、どれも興味深く伺いました。また、松本さんの採用時やお店のロゴ制作の経緯の率直なお話は、とても楽しいものでした。さらに、駐車場内の空きスペースでの盆踊りの話は、私も良く通る場

所であり、同じような事を私自身、東山道公園でできればと思っていましたので、とても嬉しくなりました。共創の場づくりのための、具体的な項目は、成程と納得しました。少し勇気を頂けた気持ちです。私は自転車に乗れませんので、お店に伺ったことはないのですが、身近にある場所で、この様な活動が行われていることを知り、大変有意義な時間を頂きました。有難うございました。

- 今回成功した好事例を教えて頂き参考になりました。大学生のポテンシャルによって変わると思うので、松本さんのような学生が育つ環境を深く知りたいです。
- 地域の声を聞いてまちづくりに参画していこうとしている姿勢がとても良く伝わる内容だったと思います。これからも引き続き南草津エリアの進展にお力添えいただけたらと感じました。

問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 長さはちょうどよかった。
- ちょうど良い時間でした。大変良い内容で参加して良かったです。ただ、キッズスペースでの雑談がうるさくて少し気になりました。あとは、質問は一人一つにした方が良いと思います。